



花：薔薇 器：森岡成好



花：鉄砲百合、グラジオラス 器：縄文土器



花：石路、蘇鉄 器：山本雅彦

片桐 功敦展 花と命

2021年7月3日(土)～11日(日)

花器：森岡成好、森岡由利子、阿曾藍人、東亨、森岡希世子、森田春菜、白石陽一、山田隆太郎、山本雅彦、他および骨董

料金後納  
ゆうメール



花：山葡萄 器：森岡由利子



花：カラアザミ 器：阿曾藍人



花：天南星、山葡萄 器：森岡成好

片桐功敦展 花と命

二〇二二年七月三日(土)～十二日(日) 十一時～十八時 会期中無休



ギャラリー うつわノート  
埼玉県川越市小仙波町1-7-6  
TEL 049-298-8715  
MAIL utsuwanote@gmail.com

電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分  
本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分  
バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり]～[喜多院前]  
駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス]～[喜多院]  
車：ギャラリー専用の駐車場は北側(5～8番)

片桐功敦(かたぎりあつのぶ)  
1973年 大阪府生まれ  
1988年～六年間、米国留学  
1997年 花道みさき流三代目家元を襲名  
2001年 弘川寺(大阪府河内町)にて初個展  
2005年 主水書房を開設  
2008年 写真集「見送り／言葉」を刊行  
2015年 南相馬市にて「SACRICE」を開催  
2021年 現在、大阪府堺市を拠点に活動

日頃店内では草花を自然の趣のまま器に添えることが多いのですが、華道家・片桐功敦(あつのぶ)の花には別の思いをもっています。美しいものは、その外見だけでなく内面から迫ってくることがあります。ときにその先にあるのは、鋭敏な痛みであったり、美醜のおどろおどろしさであったり、儂くもの悲しくあったり、美の解釈は複雑です。元来、いけばなが確立した室町時代は戦乱の世が続いていた訳で、死が身近であった当時の美への思いは、神への祈りであり、あるいは厭世的な意識だったのかも知れません。芸術とは得てしてそのような究極の状況の表裏に生まれるものでしょう。片桐功敦の花に感じるのは、この生死の境目にある意識です。24歳にして家元を襲名するも保守的な花の世界に取まらず、祈りを込めたアニミズムに通じる花を提示してきました。2013年に大阪から福島県に移り住み、約1年に渡って放射能汚染地域で花をいけ続けた行為に、彼の花への意味を思うのです。鑑賞するための花ではなく、文明の罪によって捨て去られた町や海や家畜たちを弔うように活けた花。対象は見る人を超えて、万物に向けるように。消え去った魂を呼び起こすシャーマンとして。「花と命」というタイトルは仰々しく思うのですが、一方で目に見えぬウィルスの厄災に見舞われる今、片桐功敦が花でどう立ち向かうのか。その現場を目にしたいと思うのです。

店主

花器：森岡成好、森岡由利子、阿曾藍人、東亨、森岡希世子、森田春菜、白石陽一、山田隆太郎、山本雅彦、他および骨董

ワークショップのご案内  
今展に合わせて片桐功敦さんによる花いけワークショップを開催します。今展の出品作家の器を使いたいければレッスンです。

日時：  
7月4日(日) ①13:00～15:00の回 ②15:30～17:30の回  
7月5日(月) ③13:00～15:00の回 ④15:30～17:30の回  
7月6日(火) ⑤13:00～15:00の回 ⑥15:30～17:30の回  
7月11日(日) ⑦13:00～15:00の回

人数：各回6～8名様  
代金：おひとり様10,000円(花材込み)  
持ち物：花ばさみ、花を持ち帰るための袋をご持参ください。(花ばさみがない方はお貸しします)  
会場：うつわノートから徒歩1分の公共集会場  
申込み方法：詳細はうつわノートのブログ、インスタグラム、Facebookにて別途ご案内します。

※コロナ禍など開催時期の状況により内容を変更する場合がございますので、申し込み時にネット上でご確認ください。